



写真:密生して発生するカワラタケ (撮影:平成31年1月18日)

「カワラタケ」

最も身近に見られるキノコ

日に日に寒さが増し、植物は葉を落とし、霧島山は暖かな春の訪れを待ちます。生き物の出会いは春までお預けということとはなく、寒い冬にも出会うことができる生き物がいます。

カワラタケ、その名のとおり屋根の瓦のように重なって枯れ木から発生するキノコです。黒色にリング状の白い模様が入るものが多く、人家周辺から山地まで最もよく見られる種類です。

硬質でとても食べられません、地域によっては煮だして飲用したり、薬に利用されたりしたそうです。代表的な例として、過去40年間ほど抗がん治療に用いられた歴史もあります。

じつは昆虫たちにとってもカワラタケは重要な存在です。密に重なったキノコとキノコの間をのぞいてみると小さな昆虫たちが隠れています。天敵から身を隠す隠れ家として大活躍。立ち枯れにビッシリとカワラタケが発生している様子を見ると「昆虫マンション」と表現したくなるほどです。
 (文/えびのエコミュージアムセンター)

カワラタケ
Trametes versicolor

タマチヨレイタケ目タマチヨレイタケ科

